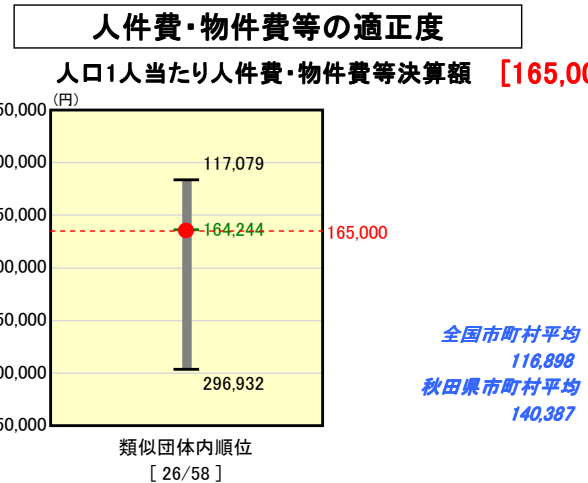
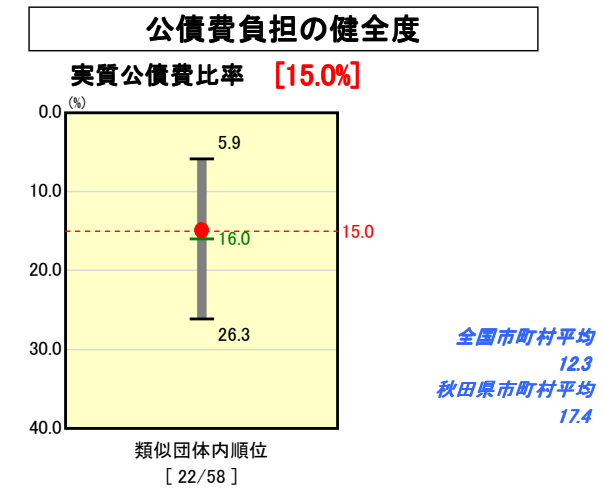
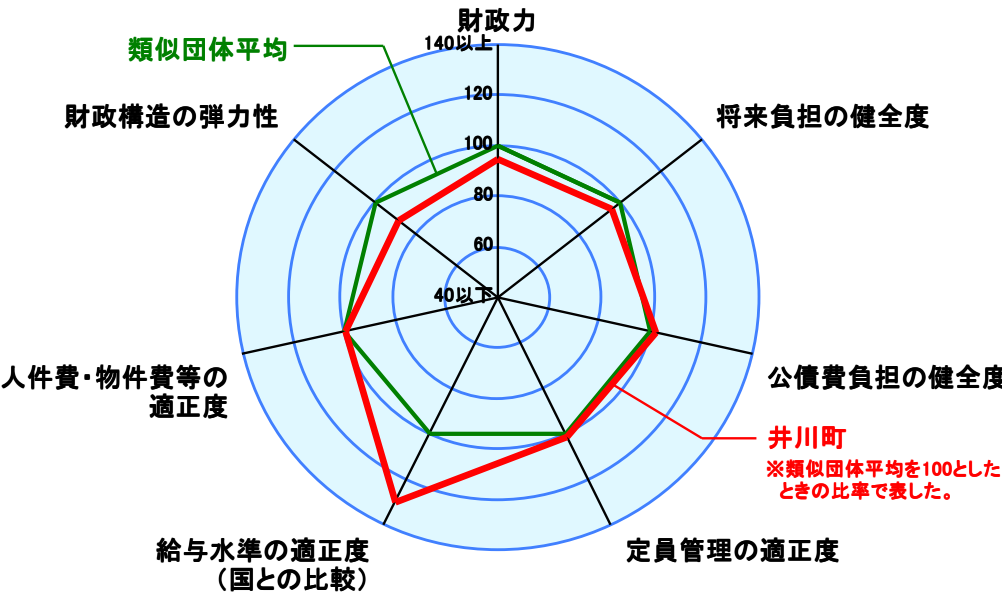
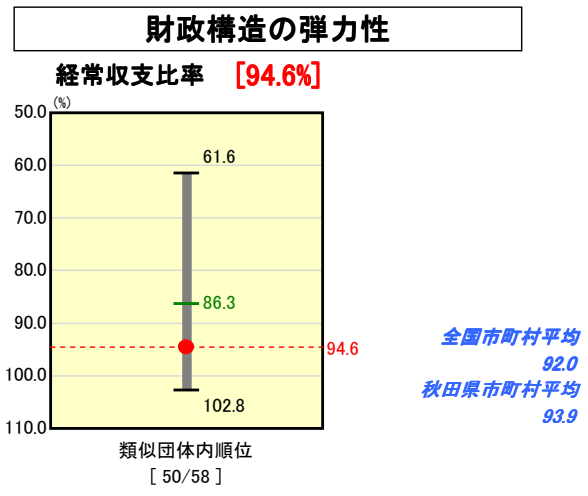
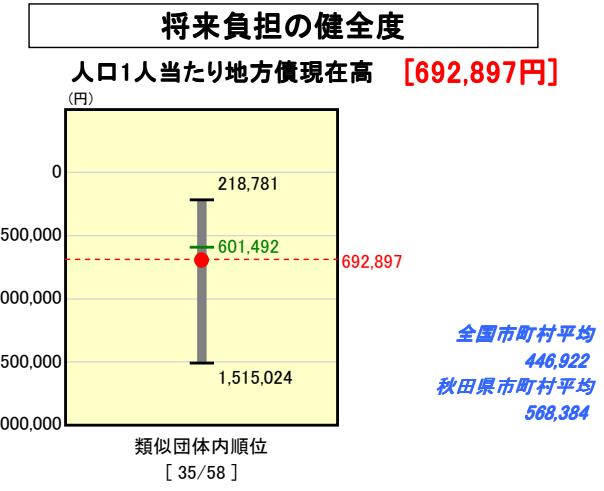
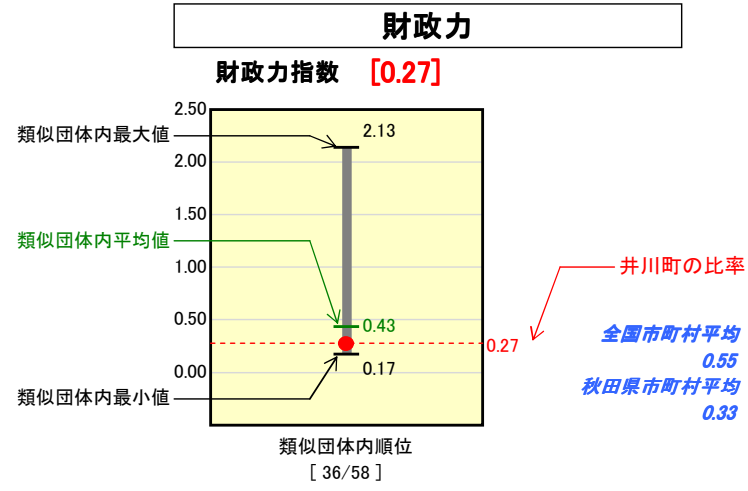


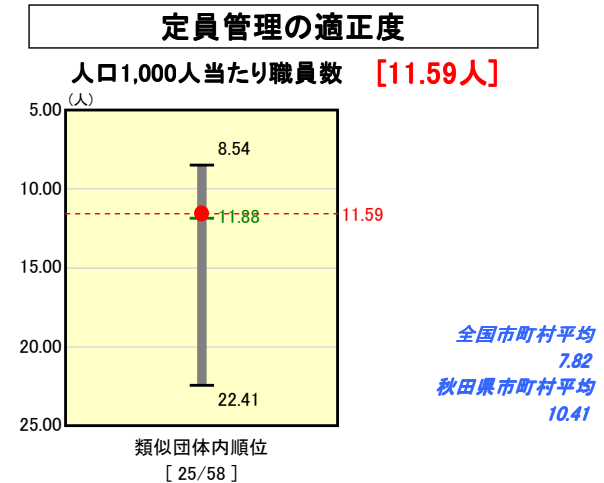
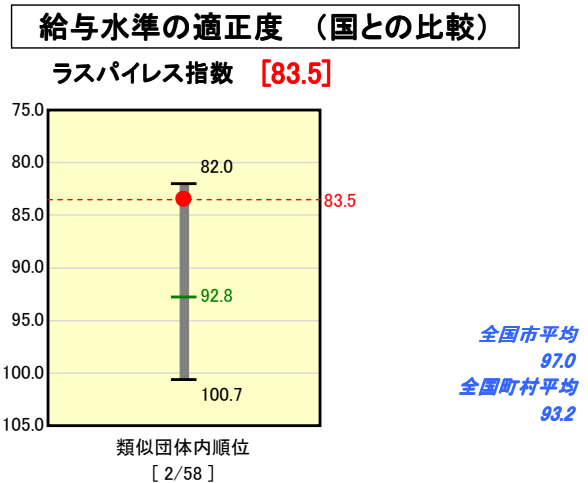
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

秋田県 井川町

人口	5,779人	(H20.3.31現在)
面積	47.95	km ²
歳入総額	2,775,257	千円
歳出総額	2,665,023	千円
実質収支	104,870	千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】 本町の面積47.95Km²のうち宅地は3.8%、基幹産業である農業も農地面積28.6%に過ぎないため、固定資産税が低くなっています。また、他産業従事者の個人所得も低く、所得割額の伸びも期待できない状況にあります。このため、中小企業対策の実施による安定した法人税収と、特産品開発を含めた農業振興により農家所得の増収を図りたいと考えます。

【経常収支比率】 主に繰出金における比率が高くなっているため、特別会計も含めて計画的に地方債の繰上償還実施や低利資金への借換、また発行額の抑制により財政構造の弾力性を図っております。

【人口一人当たりの人件費・物件費等決算額】 人件費や施設の維持管理費など経常経費の一部は、人口に関係なく必要なものもあるため、物件費の占める割合が高くなっておりますが、施設の維持管理を適正に行い後年度の支出を抑制するとともに、人件費の削減に努めることにより、一定の改善が期待できる状況にあります。

【ラスパイルズ指数】 職員数の減少により年齢別のアンバランスが生じておりますが、今後もこれまで同様に適正な運用を図ります。

【人口一人当たりの地方債現在高】 人口規模も小さいため、人口一人当たり地方債現在高は高くなる傾向にありますが、地方債現在高が財政運営上大きな影響を及ぼすことから、前年度繰越金を上回る繰上償還を実施しております。今後も計画的な繰上償還の実施と合わせて、事業の精選による地方債発行額の抑制を図り、地方債現在高の削減に努めます。

【実質公債費比率】 平成11年度以降、普通会計の繰上償還を実施してきたことにより、これまでは比較的抑えられてきましたが、下水道事業等の地方債残高が多いことから、今後も企業会計を含めて繰上償還や低利資金への借換を実施し実質公債費比率の抑制を図ります。

【人口一人当たりの職員数】 平成20年度の職員数は計画より2人少なくなっており、達成率は102%となっております。今後も計画どおり削減に取り組むことにより県内市町村平均値と同程度になることが予想されます。